



W杯から考える

サッカーW杯日本代表を応援していた全ての人たちに謝らなければならない。
なぜなら、私がリアルタイムで応援した日本代表の試合は全て負けたから・・・。

初戦のドイツ戦。日本はボールを支配できず、「これは厳しい」と思い前半で寝てしまった。
朝起きたら、逆転勝ちで日本中が沸いていた。「しまった。次こそ観るぞ」
で、コスタリカ戦。前後半応援したが、まさかの敗戦・・・。
スペイン戦は午前4時に起きられず、起きたら後半残り数分。大盛り上がりにもまた乗り遅れた。
クロアチア戦は見逃さないぞと、キックオフからPK戦まで応援したが・・・。(私のせい?)

サッカーW杯は、全世界で50億人が視聴するとか。
そんな大会にかける選手・監督・スタッフの思いは熱い。
選手や監督のコメント、そしてサポーターの行動から多くのことを学ぶことができる。

強い意志、向上心といった自分自身の生き方につながること
人とのつながり、思いやりといった他者との関係
日本のサポーターやスタッフの清掃活動にみられた公德心
国際理解について考える機会にもなり、道徳的価値が詰まっているように思う。

また、SNS上では感謝を伝える言葉もあれば、匿名をいいことに好き勝手な批判をする人も。
選手や監督は、誰だって活躍し、勝ちたい。
なのに、敗戦となったら戦犯を探し出して、匿名で批判する人がいるのも事実。
そういった行動からSNSの使用やマナーについて考える機会にもなる。

それから、W杯の日本国内の経済効果は約163億円らしい。
日本だけで163億？ では、開催地のカタールでは？ 全世界では？
スポーツと経済の関係性について学ぶこともできる。

かつてヘミングウェイはこんな言葉を残している。
スポーツは公明正大に勝つことを教えてくれるし、
また、スポーツは威厳をもって負けることも教えてくれるのだ
要するにスポーツはすべてのことを、つまり、人生ってやつを教えてくれるんだ
また、こんな言葉も。
人間の価値は、絶望的な敗北に直面して、いかにふるまうかにかかっている

スポーツマンシップの考えの原点には、グッドルーザー (Good Loser よい敗者) がある。
敗れたという事実を覆すことはできない。その時にどう反省し、どう次に向かうか。
クロアチア戦後、日本代表森保監督がサポーターに向かって深々とお辞儀していた。
謙虚にして驕らない日本人の姿がそこにあった。

いろんなことを、そして、人生を教えてくれるスポーツ。
この機会に、W杯を通して生徒と共に考える時間をとってみませんか？